

【授業の到達目標および概要】

授業のテーマ及び到達目標：

小児は大人のミニチュアではなく、小児期特有の疾患が多く存在する。小児の正常人体、及び発育を正しく理解した上で、小児期特有の疾患の病態を理解する。小児期全体ではなく先天性小児疾患に焦点を絞り、その成因として深く関連する胎生期の発育を理解した上で、先天性小児疾患の病態、及び成因を理解する。また、研究論文を検索、及び精読し、先天性小児疾患の新たな成因を解明することを最終目標とする。本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる保健学の幅広い視野に立って精深な学識を有する者を養成に関わる。

授業の概要：

先天性小児疾患（特に小児循環器疾患）の病態を理解し、各疾患の成因や機序に関する研究論文を精読し、その内容を議論により理解を深める。また、未解明である各疾患の成因を整理し、その成因を解明する科学的方法を立案する。さらに、成果を発表し、その内容を議論により練り上げる。

【授業計画】 <英語併用可>

- ①② 小児の正常な構造と機能について
- ③④ 胎生期の発育について
- ⑤⑥ 胎児から新生児への変化について
- ⑦⑧ 先天性小児疾患の病態について
- ⑨⑩ 先天性小児疾患の成因について
- ⑪⑫ 先天性小児疾患の成因を解明する研究方法について
- ⑬⑭ 成果発表、議論

【授業外学習】

各授業時に提示する文献を精読すること。また、各自が興味を持った授業に関連する内容の論文を探索し、精読すること。さらに、最終回の発表に向け、パワーポイントに成果をまとめておくこと。これらの自学自習には、授業時間の倍程度の時間（200 分）を必要とする。

【成績評価の方法・基準】

授業内の議論への参加度（50%）、及び発表（50%）により評価を行う。

【教科書】

特になし。

【参考書】

特になし。

【教材】

必要に応じその都度配布する。

【備考】

特になし。